

国のネットワークと企業の競争優位に関する実証研究

・先行研究

先行研究では、企業行動は企業間の関係に限らずより広範な社会構造(国や政府)に埋め込まれていることを主張する Political embeddedness の概念が提唱されてきたが、実証的な証拠の提示は限定的である (Zukin, & DiMaggio, 1990)。また、Social network theory は企業間の関係性そのものが重要な経営資源となるという社会関係資本の概念を根拠として、アライアンスなどの関係性がもたらす便益を明らかにしてきたが(Ahuja, Soda, & Zaheer, 2012)、近年、国レベルの関係性が企業行動に与える影響に関する研究が行われている (Hernandez, 2014)。

・研究質問

本研究は国の関係性をネットワークとして捉えて企業の競争優位に与える影響を実証し、Political embeddedness の概念の精緻化を図ることを目的としている。

- (1) 国のネットワークが企業の競争優位にどのような影響を与えるのか。
- (2) その影響は、国および企業の性質によってどのように異なるのか。

・研究コンテキスト

本研究はグローバル鉱業産業を対象とする実証分析である。当該産業の企業は世界中に鉱山の権益を保有しており、この権益の売買を頻繁に行っている。その多くは競売によって取引が行われている。

・理論と仮説

Home country trade network: 本研究では Home country trade network を国のネットワークとして捉える。Trade は国がグローバル経済にどれだけ埋め込まれているのかを示す最も重要な指標と考えられているからである (Chase-Dunn, Kawano, & Brewer, 2000)。また、先行研究は Trade network が国の経済状況に関する情報フローとなること、企業の直接投資を促進することを明らかにしている (Sacks, Ventresca, & Uzzi, 2001)

Network efficiency: 本研究では Trade network の優位性を示す指標として、Social network theory の概念である Efficiency を利用する。Efficiency とはネットワーク上の構造的空隙 (structural hole)に関する指標である。構造的空隙とは、あるアクターA がアクターB とアクターC につながっており、B とC 同士は直接的につながっていない場合の A が占めるネットワーク・ポジションを意味する (Burt, 1992)。このとき、アクターA は情報便益およびバーゲニングパワーを得ることができている (Burt, 1992)。仮説 1 がメインの影響で、仮説 2-4 は企業および国レベルの影響の違いに関する仮説である。

仮説 1: Home country trade network efficiency が高いほど、その国の存在する企業は海外の鉱山権益を獲得することができる。

仮説 2: 仮説 1 の影響は規模の大きな企業ほど強い。

仮説 3: 仮説 1 の影響は海外経験の長い企業ほど強い。

仮説 4: 仮説 1 の影響は民主的な国家ほど強い。

・研究方法

サンプル: 1992 年～2007 年に存在する 1013 の企業(各年度の平均企業数は 434)

分析単位: 企業-年度 分析手法: 負の二項回帰(ランダム効果)

従属変数:各企業の鉱山権益獲得件数(カウント変数)

独立変数:輸出入が双方とも存在すれば関係ありとしたネットワークを作成し、UCINET と呼ばれるソフトウェアで Home country trade network efficiency のスコアを算出。

調整変数:生産量(仮説 2)、海外経験年数(仮説 3)、国の政治制度指標(仮説 4)

・結果

	Model1	Model2	Model3	Model4	Model5	Model6
<i>H1: Trade Network Efficiency(mean-centered)</i>	0.857***	0.852***	0.923***	0.885***	1.008***	
	(5.57)	(5.51)	(5.81)	(5.47)	(5.88)	
<i>H2: Trade Network Efficiency</i>			0.0157			-0.0658
× <i>MNC Production</i>			(0.40)			(-1.41)
<i>H3: Trade Network Efficiency</i>				0.0391*		0.0554**
× <i>MNC Experience</i>				(2.37)		(2.70)
<i>H4: Trade Network Efficiency</i>					0.0761*	0.0755*
× <i>Political Institutions</i>					(2.48)	(2.44)
<i>Control variables</i>	Included	Included	Included	Included	Included	Included
<i>Log-likelihood</i>	-2069.11	-2053.30	-2053.23	-2050.24	-2050.58	-2046.48
<i>N</i>	6945	6945	6945	6945	6945	6945

t statistics in parentheses

† $p < 0.10$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

・結論

分析の結果、仮説 1、3、4 が支持された。したがって、企業は Home country trade network から競争的資源を得ており、その影響は海外経験が長い企業あるいは民主的な国家に存在する企業程強くなる事が明らかになった。仮説 2 が支持されなかった理由としては、規模の大きな企業は十分な経営資源を有していることから、国への依存を回避している可能性が考えられる。

・主要参考文献

- Ahuja, G., Soda, G., & Zaheer, A. 2012. The genesis and dynamics of organizational networks. *Organization Science*, 23: 434-448.
- Burt, R. S. 1992. *Structural holes: The social structure of competition*. Cambridge: Harvard University Press.
- Chase-Dunn, C., Kawano, Y., & Brewer, B. D. 2000. Trade globalization since 1795: Waves of integration in the world-system. *American Sociological Review*, 65: 77-95.
- Hernandez, E. 2014. Finding a Home Away From Home: Immigrants and Firm Internationalization, *Administrative Science Quarterly*, 59: 73-108.
- Sacks, M. A., Ventresca, M. J., & Uzzi, B. 2001. Global Institutions and Networks: Contingent Change in the Structure of World Trade Advantage, 1965-1980. *American Behavioral Scientist*, 44: 1579-1601.
- Zukin, S., & DiMaggio, P. J. 1990. *Structures of capital: The social organization of the economy*. Cambridge: Cambridge University Press.